



独立行政法人

国立病院機構盛岡病院

地域医療連携室だより



No. 28

(平成31年1月発行)



院長 菊池 喜博

新年のご挨拶

皆様、新年明けましておめでとうございます。

今年は5月から元号が改まると言うことで平成としては最後の正月になりますが、皆様には健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また日頃から、盛岡病院の運営につきましてご理解とご支援を賜り心よりお礼申し上げます。当院は今年も近隣の医療機関、介護施設などと連携しながら地域の方々の健康維持に貢献できるよう頑張っておりますので宜しくお願い致します。

さて、盛岡病院では今年大きなイベントが三つ予定されております。

一つ目は、重症心身障がい者病棟の開設です。このことは、皆さんニュース等でご存じかも知れませんが、盛岡市内には18歳未満で障がいをお持ちの方が入る重症心身障がい児施設はあるのですが、18歳以上の方が入所する施設が不足しております。そのためご本人やご家族が大変困っていらっしゃるということで、岩手県および

患者さんの支援団体から、盛岡病院に対して新たな重症心身障がい者病棟開設の強い要望があり行うものです。幸い当院には現在休棟し使っていない病棟がありますので、これを改修し施設として運営していきたいと考えております。今年4月から徐々に患者さんを受け入れ、15名程度から開始し最終的には40名の方を受け入れる予定としております。数ヶ月後に迫っておりますので、現在、看護師や児童指導員、療養介護職員などの人員を確保すると共に、当院旧6病棟の改修を急ぎ4月開設に向けて、頑張っているところです。

二つ目は、小児科の開設です。これは4月からもりおかこども病院が診療所化し病棟が閉鎖されるため、二人の小児科医が当院に赴任されるのに合わせて開設する予定です。ただ混乱を避ける意味もあり、現在のところ、日常一般診療は行わない予定で、外来は予約制として「小児の食物アレルギー」専門医療を中心として診療を行う予定です。近年、小児の食物アレルギー患者さんの数は年々増加傾向にあり、原因特定も難しいことから、患者さんご自身やご家族が大変症状に困っているという現状があります。当院では、その為の検査ベッドおよび急患対応の入院診療ベッド計8床を3階東病棟に作る予定です。その他では盛岡市小児二次救急も輪番で担当させていただく事になっております。

三つ目は、当院の名称が変更になることです。先に述べましたような重症心身障がい者病棟開設や小児科医療の開始を機会に名称を変更するもので、3月から「国立病院機構 盛岡病院」が「国立病院機構 盛岡医療センター」になります。東北、北海道の国立病院機構病院では、「〇〇医療センター」と呼称しているのは「仙台医療センター」「北海道がんセンター」「北海道医療センター」「旭川医療センター」の4つで、いずれも大きな総合病院であり、同じ名前をいただくことは、大変光栄でもあり若干恐縮している次第でもあります。実は現在国立病院機構の病院は全国で141病院あり、そのうち約半数近くの病院が既に「・・・医療センター」と変更しています。これには「一般診療を行っている事」と「地域の二次救急担当病院」等いくつかの条件がありますが、当院も条件はクリアできておりましたので、本部の指導通り今年3月から名称変更することに致しました。私どもはこれを励みとして、名称変更後も皆様に愛される病院でありたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

以上述べました当院のイベントとは別に、盛岡地区では、今年9月に岩手医大附属病院が矢巾に移転するという大事業があります。このことの地域医療に対する影響がどのようになるのかは、まだ予測できない部分が多いのですが、少なくとも当院や当院周辺の盛岡市北西の住民にとっては医大が更に遠くなりますので、これまでより不便になりそうです。従いまして、今後は地域の診療所の先生方や施設と協力しながら、この地域の住民で医大へ行けなくなる患者さんの受け皿としての役割も考える必要があると考えています。大切なことは、地域の患者さん方には出来るだけ不便を掛けないようにし、安心で安全な医療を継続して提供していくことだと思います。

その意味において、当院では今年も患者さんに信頼され、愛される病院になるよう職員一同努力して参存存ですので、皆様のご支援を宜しくお願い致します。

平成30年度結核医療研修会開催報告

今回で19回目となる平成30年度の結核医療研修会を12月8日(土)にホテルメトロポリタン盛岡本館で開催しました。

今年は会場をさらにアクセスの良い駅近としたためか、昨年より2割多い102名の参加となり大盛況に終えることができました。結核に関する研修の機会は少なく、当院が開催する当研修会への期待値が大きいとあらためて実感しました。また、今年度は受講者の集中力を考慮し研修全体の時間をギュッと絞り込み1時間短縮したことも好評でした。

例年どおり3部構成とし、当院感染管理認定看護師、岩手県の感染症担当者、結核医療専門医に講演をお願いしました。

菊池院長の挨拶に始まり、講演1『結核の感染対策および当院の現状』では、当院大谷看護師長に結核患者が疑われる患者が発生した場合の対応、個々の感染対策、予防策について当院の対応状況を添え分かりやすく講演いただきました。

講演2『岩手県の結核の現状』では、岩手県保健福祉部医療政策室感染症担当の三田江美様から罹患率、年齢別登録患者数、医療従事者の罹患率、集団感染例等のデータをもとに全国平均と比較した岩手県の現状と課題について講演していただきました。

休憩をはさみ講演3では、『結核の低蔓延化をめざして』というテーマで国立病院機構高知病院の大串文隆院長より、結核の基礎から深掘りした幅広い情報について講演していただきました。大串先生は、「呼吸(いき)すれば胸の中(うち)にて鳴る音あり 風(こがらし)よりもさびしきその音！」を詠んだ肺結核に喘いだ盛岡市出身の歌人石川啄木の「啄木新婚の家」を訪れてから当研修会に臨んだそうです。講演の途中には、高知県の観光大使さんながら高知に関連した「坂本龍馬の銅像」「桂浜」「高知城」「四万十川」「よさこい祭り」の写真を紹介するなどリラックスタイムを交え、医師以外の方にも分かりやすく丁寧に講演を進めていただきました。

講演の他には、結核病棟、薬剤科、研究検査科による展示コーナーを設け、DOTSノート、N95マスク、抗結核薬の関連資料、結核菌群検出検査や結核菌に関するデータ、学会等での発表資料等の展示を行いました。

会は木村副院長の閉会あいさつで終了しました。

毎年開催してきている結核医療研修会ですが、例年同様に参加者の関心が高く、当研修会、当院に対する期待の高さを感じるとともに、今後も継続的に、結核に関する啓蒙活動、情報発信を岩手県とともに実施していく必要があると感じた研修会でした。

管理課長 豊田 篤



平成30年度 結核医療研修会

日 時：平成30年12月8日(土) 12:50~15:00
会 場：ホテルメトロポリタン盛岡 本館4階 岩手

プログラム：

- 1) 12:50~13:00 開会挨拶 盛岡病院 院長 菊池 高博
- 2) 13:00~13:15
講演1『結核の感染対策および当院の現状』
座長：盛岡病院 内科医長 菅野 智彦
講演：国立病院機構盛岡病院 看護師長・感染管理認定看護師 大谷 直美 様
- 3) 13:15~13:45
講演2『岩手県の結核の現状』
座長：盛岡病院 副院長 木村 啓二
講演：岩手県保健福祉部医療政策室感染症担当 三田 江美 様
- 4) 14:00~14:50
講演3『結核の低蔓延化をめざして』
座長：盛岡病院 院長 菊池 高博
講演：独立行政法人国立病院機構高知病院 院長 大串 文隆 様
- 5) 14:50~15:00 質疑応答
- 6) 15:00 閉会挨拶 盛岡病院 副院長 木村 啓二

主 催： 独立行政法人国立病院機構盛岡病院
共 催： 岩手県保健福祉部
後 援： 岩手県医師会、盛岡市医師会、岩手医科大学医師会
岩手県薬剤師会、岩手県予防医学協会

重症心身障がい者病棟の開設にむけて

現在、岩手県内では、相当数の重症心身障がい児・者の方々が在宅で療養されており、今後、医療的ケアが必要な18歳以上の方が入所できる施設の需要が増加していくことが見込まれております。しかしながら、盛岡市内には入所施設が少なく、多数の待機者が発生しており、岩手県においてその対応が一つの課題となっていました。

このような状況の下、県内唯一の小児専門病院である岩手愛児会もりおかこども病院(盛岡市)の診療所化の方針決定を受けて、岩手県では、その入院機能等を移転し、盛岡圏域の重症心身障がい者医療の確保・充実を図るとの考えから、当院が強い要請を受けました。

このため、当院においては、現在休棟している病棟を重症心身障がい者に適切な療養環境に改修し、岩手県および患者さんの支援団体等の要望に応えるべく、重症心身障がい者病棟を開設することとしました。

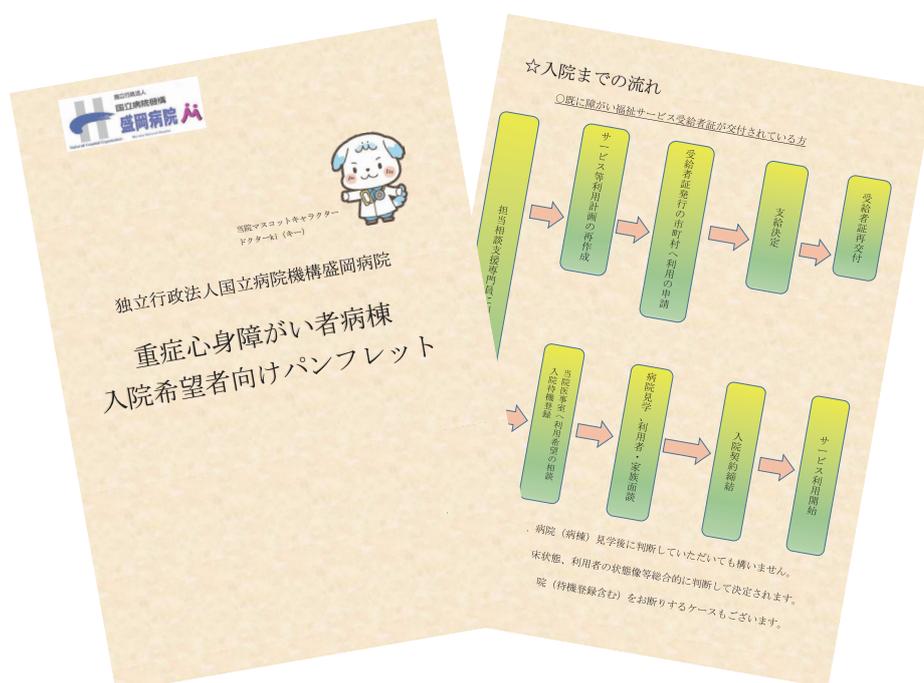
重症心身障がい者病棟の新規開設は、国立病院機構では初めてのことであり、国立病院機構内でも注視されている事業で、国立病院機構本部の支援も受けながら準備を進めることとなりました。

現在持っていない機能を新たに立ち上げるのは相当の準備が必要であることから、平成30年4月、準備を万全に進めることを目的に、重症心身障がい者医療等プロジェクトチーム部会を立ち上げ、毎月、プロジェクトの進捗状況報告と課題の検討をすることとしました。また、重症心身障がい者医療を学び体感するため、既に重症心身障がい者病棟を運営している医療機関において、16名の看護師が延34日間の研修を受け、帰院後は全職員に重症心身障がい者医療の実際を伝達しました。10月には児童指導員が当院に配属になり、利用相談窓口が開設され、利用にかかるパンフレットの作成・配布を行い、事業の紹介や利用について等の相談対応をしながら開棟へ向けた準備をしております。現時点で50件近くの問い合わせをいただいております。11月には、もりおかこども病院入院患者ご家族向け説明会を開催し、活発な意見交換ができ、重症心身障がい者病棟の開設後のイメージを身近に感じることができました。また、虐待防止にかかる研修を全職員受講に向け複数回の開催に取り組み、全職員が一丸となって重症心身障がい者の受け入れ準備を進めております。

現在も準備段階ではありますが、岩手県、盛岡市、患者さんの支援団体、関係医療機関、国立病院機構本部等の支援を受けながら、患者さんや地域の方々に安心・信頼される医療を提供できるよう体制の整備をしていきますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

企画課 入院係長

佐藤 正彦



国立病院機構盛岡病院 診療担当医一覧表

平成31年1月1日現在

●受付時間 8:30~11:00 (急患については随時対応)

※電話による予約受付時間: 13:00~17:00 **専用電話: 019-645-4564**

診察ご希望の方は、下記の曜日、時間等をご確認の上、ご予約下さい。

診療科目	新・再別	月	火	水	木	金	
呼吸器内科/ 一般内科	新患	高原政利	梅沢 純	梁井 香	山田博之	☆東北大学 呼吸器内科医師	
		菊池喜博	木村啓二	菊池喜博			
	再来	山田博之	梅沢 純	水城まさみ	山田博之	-	
		(9:15~) 菊池喜博	木村啓二	菊池喜博	木村啓二	-	
		高原政利	古和田浩子	梁井 香	守口奈緒美	-	
午後1:30 ~3:30	新患・再来	木村啓二	山田博之	守口奈緒美	山田博之	菊池喜博 (木村・千葉)	
循環器内科	午前	新患・再来	-	(13:00~) ☆田巻健治	☆東北大学 循環器内科医師	☆東北大学 循環器内科医師	
内科(糖尿病・ 内分泌内科)	午前	新患・再来	-	☆岩手医科大学 糖尿病・代謝内科医師	-	-	
化学物質過敏症 環境アレルギー	午後	再来	-	-	-	水城まさみ	
消化器内科	午前~ 午後3時	新患・再来	工藤典重	穴倉かおり	-	塩塚かおり	
リウマチ科 (内科)	午前	新患・再来	千葉実行	千葉実行	千葉実行	-	千葉実行 (最終週は休診)

※呼吸器内科・一般内科の午後外来は、新患・再来・予約外の急患について午後1時30分~3時30分の時間で診療を行います。

診療科目	新・再別	月	火	水	木	金	
整形外科・ リウマチ科 (整形外科)	午前	新患・再来	大山素彦	大山素彦	本田剛久	大山素彦	☆大竹高行 (第1・3・5週) 大山素彦 (第4週)
			本田剛久	本田剛久 (第2週 佐藤)	佐藤研友 (11時まで)	佐藤研友 (10時まで)	佐藤研友
			佐藤研友 (第2・4週)11時まで	-	-	-	本田剛久
	再来	☆小山田喜敬	-	-	-	☆小山田喜敬	
脊椎外来	午後2時 ~4時	新患・再来	-	-	大山素彦 (紹介予約制)	-	

診療科目	新・再別	月	火	水	木	金
小児科	午後	新患・再来	☆和田博泰	-	-	-

※特殊外来(乳児健診、予防接種、出産前の小児保健指導)は毎週月曜日の一般診察の中で行います。

診療科目	新・再別	月	火	水	木	金
リハビリ テーション科	午前	新患・再来	-	☆山口一彦	-	☆山口一彦

「☆」は、非常勤の先生です。

独立行政法人国立病院機構盛岡病院

岩手県盛岡市青山一丁目25番1号

病院代表 TEL 019-647-2195

FAX 019-646-1195

